

ひなん 5 避難のしかたについて

ひなん
～避難なんてしたことないけど、どうしたらいいの?～

あなたが災害(洪水)から身を守るための最適な避難行動は?

防災ハザードマップに、自分の住んでいる家の場所に大きく○印をつけましょう。

その○印の場所には、浸水想定区域の色が塗られていますか?(→4ページでチェック済み)

いいえ

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地やがけのそばなどに住んでいる場合など、避難情報を参考にし、個別に必要なに応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。(例外あり)

【例外ケース】

色が塗られている(=浸水想定区域内である)場合でも、次の①～③全てを満たすときは、自宅に留まって安全確保をすることが可能な場合があります。

- ① 洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。(→4ページでチェック済み)
- ② 浸水する深さよりも高いところにいる。
- ③ 水や食料の備蓄が十分にあって、浸水したとしても水が引くまで(滝川市内では最大でも概ね3日間)しのぐことができる。

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親類や知人はいますか?

はい

感染症拡大等のリスクがある状況では、不特定多数が集まることになる避難場所だけでなく、他の避難先の確保も検討しておきましょう。

いいえ

滝川市から警戒レベル4が発令されたら

ただし

避難に時間がかかる人がいる場合は(高齢者や一人で歩行が困難な方など) →警戒レベル3が発令されたら

安全な地域にある親類(知人)宅に避難させてもらいましょう。

指定緊急避難場所などに避難しましょう。

警戒レベル5(既に災害が発生している状況)でまだ避難できていない場合は、自宅の少しでも安全な部屋に移動したり、すぐ近くに安全な建物等があればそこに移動するなど、命を守るための最善の行動をとってください。

※内閣府ホームページなどをもとにして作成

自宅の外に避難するときの注意点

① 避難先や避難経路の確認

どの避難場所にどの経路を通って行くかを決めましょう。

- ・ 滝川市からの**避難場所の開設情報を確認**しましょう。
- ・ その避難場所が**どこにあるか**を確認しましょう。(→29 ページの一覧とマップを参照)
- ・ その避難場所には**どの経路で行くのか**を検討しましょう。

(例：大雨でアンダーパスが冠水している可能性があれば踏切を通るなど…)

※感染症の拡大が懸念されている時などは、不特定多数の人が集まることになる避難場所を避けて、安全な地域にある親類や知人宅にお世話になることなども有効な避難方法の一つです。

② 非常時持出品の(最終)確認

非常時持出品は、いざという時になってから、そろえることが難しい可能性が高いことから、**日頃から準備**しておく必要があります。(→30 ページを参照)

これから避難しようという場面では、**あくまで最終確認**ということになります。

③ 避難時の服装等の確認

避難時は、天候状況や季節に応じてレインコートや防寒具を用意するほか、できるだけ**動きやすく着なれた服、履きなれた靴**を着用しましょう。小さなお子様には、連絡先などを書いた名札を付けておきましょう。



④ 家族の安否の確認

災害時には電話がつながりにくくなることも考えられ、連絡がつかない家族がいる時には互いに不安を抱えたまま過ごさなくてはなりません。あらかじめそうした場合に備えて、伝言を登録したり再生したりすることができるNTTが提供する**災害用伝言ダイヤル(171)**や**携帯電話会社が提供する災害用伝言版**といったサービスなどを利用することについて、使用方法などを含めて確認しておきましょう。(→裏表紙を参照)



⑤ 家を出る前の確認

- ・ ガスの元栓を締めましょう。
- ・ 分電盤のブレーカーを落としましょう。
- ・ 水落としをしをしましょう。(特に冬季間)
- ・ 戸締りを確認しましょう。

